

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 長野県 松本市

事業名称 『WEBサービス技術による、地域参画型観光情報発信流通モデル』構築事業

1. 事業実施概要

平成19年度、本事業により観光情報の整理と発信を可能とし、平成20年度は民間大手ポータルサイト（goo）を情報発信パートナーとして連携し、地域サイトへの回遊性を考慮したユーザーアクセスモデルを構築しました。今年度はこれら2ヵ年の成果である民間事業者と連動した上記モデルに、サーチエンジン等の民間商用サービスやWeb APIを積極的に取り込むことにより、自らが保有するシステムだけに留まらず、Web全体としてポテンシャルを最大限発揮させ、情報発信手法の高度化および積極的な観光情報発信に努めました。

また、これと平行して、旅行前および旅行中における様々な観光情報をより簡単に、ストレスなく提供し、かつ、観光客が容易に手に入れられるようなモデル構築に取り組みました。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
情報発信方法の高度化と情報提供先の拡充による観光情報発信力の向上	民間大手ポータルサイト2社への観光情報の提供	1社	×	大手ポータルサイト“Yahoo!JAPAN”との情報連携および特集企画の製作・掲載

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

昨年度、情報発信パートナー（民間ポータル事業者）と協議を進めた中では、民間ポータル事業者側が地域（ローカル）に目を向け、地域情報をより詳細に各地方から吸い上げ、それにより他のポータル事業者との差別化を図り、より利用者に指示されるポータルサイト作りを模索している状況が確認できました。そのため、観光情報の提供先つまり、連携先となる民間ポータルサイトの複数化による情報発信力の向上とサーチエンジンサービス（「検索連動型広告」、「興味・関心連動型広告」等）の利用による潜在的顧客の創出、および効果的なユーザーアクセスの誘導を期待しましたが、今年度事業を進めていく中で、大手ポータル側の部署ごとの地域情報に対する認識の相違やデータ連携に対する温度差、さらには高額な費用等が障害となり、情報提供先の拡充には至りませんでした。

<委託業務説明書>

1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

(1) 情報発信手法の高度化

(目的)

- ①松本市の観光情報の認知度向上及び地域へのアクセス増加
- ②地域の各主体による観光情報発信モデルへの参画意識向上
- ③携帯電話を利用したリアル観光時におけるスムーズな情報提供の実現

(具体的取り組み)

- 民間大手ポータルサイト“goo”および(“Yahoo!”)の地域情報等への観光情報発信流通基盤からの情報発信(連携I/F及び手法)の確立 ※Yahoo!については協議が調わず断念
- 回遊性を考慮したユーザーアクセスモデルの構築
- 携帯電話向け観光情報発信サイトの構築

(成果・効果)

- ① 大手ポータルサイト側としても新たなビジネスフィールドとして、地域の情報を求め、他のポータルとの差別化を模索しているということが判明。また、このようなポータル側の姿勢を地域の各主体が改めて認識することにより、観光情報発信モデルへの参画意識向上が図られた。
- ② goo 地域情報から観光情報発信サイトへのアクセス数 1,581 件 (H21.9月~10月末)
- ③ 特集掲載期間を昨年度と比べ 1 ヶ月前倒ししたことで、2 倍強の PV があり、より高い Web 効果がありました。
- ④ ユーザーインターフェースの統一等による利用者の利便性の向上が図れました。
- ⑤ 実際の観光時における情報提供の多様化が実現できました。

(明らかとなった課題と解決に向けた方向性)

(課題①)

大手ポータルサイト内における地域情報の位置づけ(掲載位置、他の情報と比較した場合の取り扱いの重要度等)が、ユーザーの認知度に大きく影響

(解決の方向性)

地域情報や「特集企画ページ」への誘導を促すバナーを制作し、ポータル内の各所に配置したことにより改善が図られた。(H21年度実施)

(課題②)

地域情報のサービスがその地域(例えば「松本市」)に関心のある方のみをターゲットとした導線であるため、潜在的顧客の発掘につながり難い面があります。

(解決の方向性)

サーチエンジンの機能を活用した「検索連動型情報発信(広告)」、「興味・関心連動型情報発信(広告)」等、ユーザーの興味・関心に連動または潜在意識を掘り起こす情報発信手法を実施したところ、昨年度より大幅な PV 増につながりました。

(課題③)

情報提供側のモバイル端末利用に関する認知不足のため、何を、誰に、どうやって発信していくのかといった初歩的なところから議論せざるを得なく、かつ現在も手探りの状態。

(解決の方向性)

情報発信パートナーから本市を訪れる観光客の視点に立った、リアル観光時における具体的な要望事項のレクチャーを受け、カスタマイズの容易なサイト作りに努めました。今後は観光客等へのアンケート調査などを実施し、現状を踏まえたリアル観光時に真に役立つサイトの構築を目指すこととしたい。

2 自律的・継続的運営の見込み

自律的・継続的運営に向けては、モデル全体としての最適化の視点から自らの所有するシステムのみならず、「利用可能な民間サービス（インフラ）を可能な限り活用」することによる「機能の適正配置（再配置）」をさらに進め、地域側が保有するシステム（機能）の「最適化」を図りました。これにより、地域関係者の技術的・負荷的不安の軽減を実現し、財政力の小さな地方都市においても継続的に運営できる環境を整えつつあります。

他方、自律的運営に向けては、公費に頼らない自主財源の確保が依然として大きな課題です。この解決に向けては Web 上への「広告枠販売」がその解の一つと考えられますが、販売価格はサイト訪問者数に比例する傾向があるため、地域情報の露出効果が拡大するような取組みが必須です。

今秋、大手ポータルサイト上の特集ページ制作を行い、その中で検索連動型情報発信の仕組みを活用し、地域情報へユーザーを導く方策も実施してみましたが、H 2 2 年度以降はこれらに加え、更なる訪問者数増に向けた取組みが必要と考えています。

なお、上記特集ページ制作に際しては、地域の民間サイトへのリンクバナー掲載についても検討をしましたが、広告的性質を捉えられることによる経費的、人的負担が多く、掲載を断念した経過があります。今後官民連携時における広告収益のビジネスモデル形成あたっては、その適用可能な範囲、費用分担、収益配分等の整理が必要不可欠です。今後は双方の意見交換から段階的にその実現に向け、検討を進めていく必要があると認識しています。

自主財源についてはこうした状況ではあるものの、先の「利用可能な民間サービス（インフラ）を可能な限り活用する」という全体最適化効果で、当面本事業の持続性は確保できるものと考えています。この間に、検討に必要となるデータを可能な限り取得し、ビジネスモデル形成に向けた具体的検討をしてまいります。

3 今後の展開方針

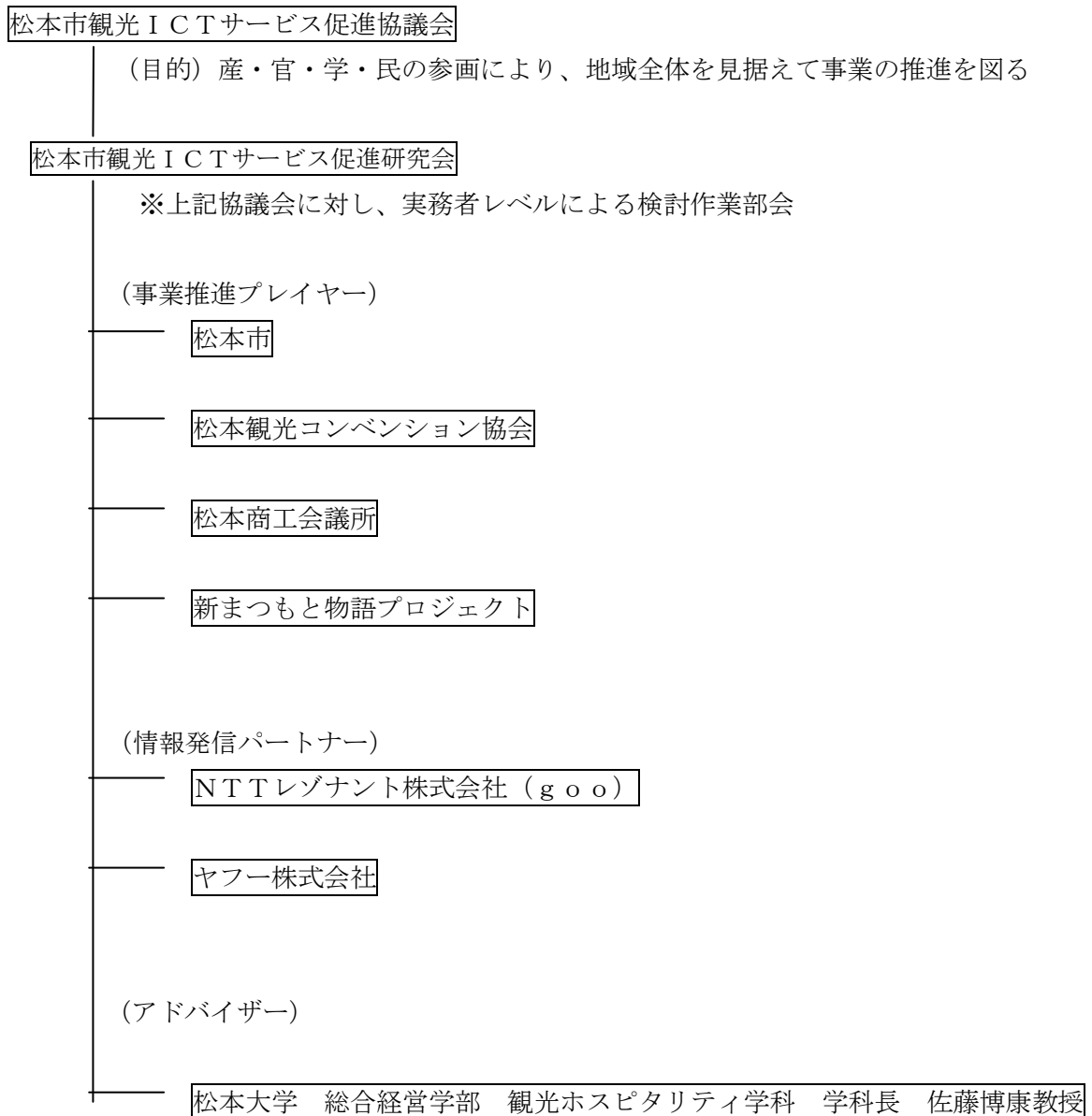
平成 1 9 年度において、新たな観光情報の整理と発信を可能とし、平成 2 0 年度には民間ポータルサイト（g o o）を情報発信パートナーとして、観光情報の発信と、地域サイトへの回遊性を考慮したユーザーアクセスモデルを構築した本事業では、平成 2 1 年度、情報閲覧者に対する「松本」のブランディング効果を高め、地域経済へ貢献するために、「回遊性を考慮したユーザーアクセスモデル」にサーチエンジン、WEB API 等、既存の民間商用サービスを積極的に取り込むモデルへと発展させる取組みを行ってまいりました。

これらの取組みは、松本市観光 I C T サービス促進協議会（研究会）からも一定の評価を受けており、「利用可能な民間サービス（インフラ）を可能な限り活用する」という基本的方針のもとで、更なる取組み強化を求められているところです。

よって今後も保有するシステムだけに留まらず、Web全体としてポテンシャルを最大限活用すべく、多種多様な媒体に情報発信していく方策を模索し、かつ最大の懸案である自律的・継続的運営のため、官民連携時における広告収益のビジネスモデル形成へ向けた取り組みを強化していきます。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	松本市	・ 協議会（研究会）の事務局 ・ モデルの企画、立案、再委託 ・ 外部との調整 ・ システム構築 ・ 観光、ロケ情報のコンテンツ・プロバイダー
2	松本観光コンベンション協会	・ 松本市域の観光関連団体（事業者）等の調整 ・ 宿泊施設情報のコンテンツ・プロバイダー
3	松本商工会議所	・ 松本市域の飲食宿泊等事業者の調整 ・ 飲食施設情報のコンテンツ・プロバイダー
4	新まつもと物語プロジェクト	・ 松本市公式観光ポータルサイト(新まつもと物語)の管理・運営
5	NTTレゾナント(株) (g o o)	・ 地域情報の発信 ・ 地域との連携に関する提言
6	ヤフー(株) (Y a h o o !)	・ 地域情報の発信 ・ 地域との連携に関する提言
7	松本大学総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 佐藤博康教授	・ 総合アドバイザー

事業実施進行表

実施内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22 1月	2月	3月
H20 システム モニタリング	→											
協議会等開催			△					△				
システム構成の 検討・決定		→										
システム構築に 係る競争入札			→									
システム設計				→								
システム稼働						→	→	→	→	→	→	→
報告書作成										→	→	→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] <http://www.nttdata-shinetsu.co.jp/product/index.html> [(株)NTT データ信越 商品情報]

[2] http://www.shinshu-liveon.jp/www/topics/node_129869 [信濃毎日新聞社メディア局内 信州
Live on 事務局]

[3] <http://www.yomiuri.co.jp/tabi/news/20090926-OYT8T00655.htm> [YOMIURI ONLINE]

[4] <http://local.goo.ne.jp/special/matsumoto2009/> [ポータルサイト **goo**]

[5] <http://youkoso.city.matsumoto.nagano.jp/modules/news/article.php?storyid=104>
[松本公式観光情報サイト]

[6] http://keitai-hansoku.jp/100_keitainews/goo.html [携帯販促.jp]

[7] <http://ymat.jp/> [松本市公式観光情報ポータルサイト：携帯版新まつもと物語]

[8] <http://takara.city.matsumoto.nagano.jp/> [松本市文化財 HP：松本のたから]

平成21年度地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：長野県 松本市

事業名称：『WEB サービス技術による、地域参画型観光情報発信流通モデル』構築事業

1 概要

(1) 情報発信力の向上のための機能追加

既存システムの機能を維持しつつ、民間大手ポータルサイト(goo)への観光情報の発信をより容易にできるよう、自動的に送信ファイルを作成し、FTP 送信する観光情報発信モデルを確立しました。また、Web API を利用する環境を整えたことにより、間接的にせよ松本市の観光情報サービスの提供を受けるユーザーが増えることも期待できます。

また、複数の企業や個人が公開している Web API を組み合わせることにより、これまでなかった地域発の情報発信手法として大いに期待できるものとなりました。

(2) 情報発信手法の多様化

市民団体が構築・運営している松本市公式観光ポータルサイト「新まつもと物語」の携帯版を新たに構築し、リアル観光時における情報提供を可能としました。

また、GPS 機能により、周辺の店情報・観光地情報を選別して表示できるようにした一方で、データ量にユーザーが振り回されないような配慮も同時に施しました。

(3) 全体最適化

民間事業者による地域情報配信サービス（インフラ）の積極的利用により、システム構成を見直し、最適化を図りました。軽量かつ柔軟なシステムとなったことで、より持続性をもったモデルへと発展させることができました。

2 運用結果

昨年10月1日より、新システムでの公開を開始しました。運用開始から約6ヶ月経過した2010年3月26日現在、民間サービス（大手ポータルサイト）へ提供した観光情報のうち、アクセス数の把握が可能な258件(提供した観光情報のうち約30%)に対するアクセス件数は、8656件(月平均：1442.6件)となっており、民間サービスとの連携／民間サービスから地域サイトへのユーザーのアクセスリターンを促すモデルが機能していると確認でき、現在まで、運用トラブルもありません。

3 課題・改修の必要性

情報発信力の向上と地域サイト（サービス）へのユーザーのアクセスリターンの増加のために、他の民間サービス（大手ポータルサイト）等とのさらなる連携機能の強化が必要。

さらに、観光情報発信流通モデル（システム）の利便性の向上のために、システムに対する他のシステム／プログラムからの接続インタフェースの追加も検討すべき対象と考えている。

4 その他